

ご存じですか！文化財

「田中正造の墓」

市指定史跡
昭和55年3月5日指定

40



問合せ
北川辺教育事務所
☎0280・62・1710



田中正造（1841～1913年）と足尾鉍毒事件は、日本の近代史の中で、大規模公害がどのようにもたらされ、どのように人々が闘ったのかを語る最初の例として、社会科教科書の中でも広く取り上げられています。

田中翁は、鉍毒被害が広がりをみせる明治20年代から、衆議院議員として議会で政府を追及し、「足尾銅山の操業停止」と被害民の救済を訴えてきました。被害各地におもむき、被害民を激励し、彼らの抗議運動の指導者的な役割を果たしました。明治34年には、議員を辞職し、死を覚悟して明治天皇へ直訴を行いました。

明治35年、渡良瀬川の最下流地

域に位置する北川辺地域（旧利島村・旧川辺村）は、国や県の遊水池化案により廃村の危機に直面しましたが、田中翁は地元青年層を励まし、その結果、両村民の一致した反対運動が功を奏して、廃村の危機を免れることができました。田中翁とその薫陶を受けた青年層は、北川辺を救った大恩人といえます。

生涯を通じて鉍毒問題に取り組んだ田中翁の遺骸は、縁の各地に分骨されました。麦倉の北川辺西小学校校庭の南西の隅にある「義人田中正造翁墓」がその一つです。今年、田中翁没後百年の節目の年です。今、田中翁の思想と行動が改めて見直されています。北川辺地域でも追善の記念行事を行う予定です。



田中正造の墓（北川辺西小学校敷地内）

紹介者 山崎 繁雄さん（駒場）